

## 第9回麻雀最強戦

### プロ最強戦



●石崎洋（プロ連）。ミスター十段位。不調に耐えてオール2着3着の結果、白組6位。



●小島武夫（プロ連）。ご存じミスター麻雀。柔軟な打ち方で予選突破の紅組準決勝4位。



●前原雄大（プロ連）。途中でワイシャツを脱ぎ切るほど気合を見せたが紅組8位。



●宇野公介（最高戦）。プロ入り3年22歳で予選3トップ決勝に進出したのは大殊勲。決勝3位。



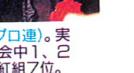
●宇野公介（最高戦）。プロ入り3年22歳で予選3トップ決勝に進出したのは大殊勲。決勝3位。



●土田浩翔（プロ連）。独自の麻雀観も魅力のひとつ。メンゼンにこだわらずポンチを自在に使いこなす。優勝。



●吉田幸雄（プロ連）。予選は万全だが安藤に叩かれ白組準決勝4位。



●荒正義（プロ連）。実力では今大会中1、2とされるも紅組7位。



●下山道男（プロ連）。準決勝でリーチが3回不発、白組準決勝3位。



●袴田康介（プロ連）。わずか300点差で準決勝進出できず紅組5位。



●金子貴行（プロ連）。厳しい面子のなか予選突破の紅組準決勝3位。



●三ヶ島幸助（101）。八翔位獲得いらい大活躍だが今回は白組8位。



●浦田和子（フリー）。予選から準決勝までビッグバン状態の爆発続き。だが最後には音無し状態となって決勝4位。

# 1800差届かず!! 安藤満、



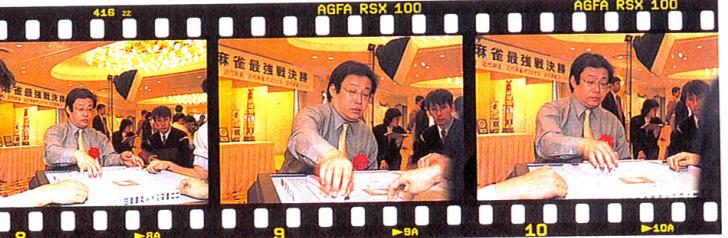
●安藤満（プロ連）。最強戦で5度目の決勝だが、またも届かず決勝2位。



●伊藤優季（プロ連）。初戦ラスから死神の復活力を見せるが紅組6位。

# 浦田和子、無人の 荒野を突っ走る!!

●飯田正人（最高戦）。実績と本命の第7期最強戦で白組准決勝4位。



いつもながら安定した打ち回しでトツブ2回、準決勝進出を決めたかに見えただ。だが後半2回、飯田から次々と大物手をアガって引きずり落としたのは、今年会最年少22歳の宇野公介だった。宇野はダントツで準決勝に進出する。他の3人は土田浩翔、小島武夫、吉田土田はビッグタイトルを得た。

回続けて安藤に手は入らなかつた。早々と南をボンとして流しにかける土田。浦田は決勝に入つて勢いがストップ、脇役に徹している。そこに宇野がリーチ、一発ツモ。だが裏トラ乗らず、土田は上である。

2本場。さすがに3回逆転したか、会場がどよめく。だが裏が乗らずに2600点オール。わずか1800差、まだ土田が上である。

逆転したか、会場がどよめく。だが裏が乗らずに2600点オール。わずか1800差、まだ土田が上である。

決勝戦特有の緊張した空氣のなか、東1局、土田のリーチが入った。数巡後にツモった手牌にビックリ。2000オール、マンガンとアガつて安全圈に入る。2着になつたのはこれまで点棒を集めた宇野。

反対に白組は小場となつた。わずか1回勝負と意識すれば絞りあいになるのも当然か。東場は最高が1300。そこから抜け出したのは安藤だった。2000オール、マンガンとアガつて安全圏に入る。2着になつたのはこれまで点棒を集めた宇野。

### 【決勝】

紅組は打撃戦となつた。東場のアガリ4回はすべてマンガン。南1局には土田が倍マンをアガる。この叩き合いのなかから勝ち残つたのは、土田と浦田だった。浦田の勢いはまだおどろえていない。

反対に白組は小場となつた。わずか1回勝負と意識すれば絞りあいになるのも当然か。東場は最高が1300。そこから抜け出したのは安藤だった。2000オール、マンガンとアガつて安全圏に入る。2着になつたのはこれまで点棒を集めた宇野。

### 【準決勝】